

鏡川流域パートナーシップだより No.216 R7.5.21



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

鏡川流域関係人口が集う！第2回「川から始める地方再生」サミット！

5月20日(火)に、【著者来たる！第2回「川から始める地方再生」サミット@高知・鏡川】と題し、「川から始める地方再生」の著者・水谷要さんをお招きし、鏡川流域関係人口が集うイベントを開催しました。4月に引き続き、2回目の開催です。

水谷さんが代表を務める「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」は、リバーブランディング(川を起点に新しい経済効果を生み出し、地域の稼ぐ力と地域プロモーションを創造すること)を通じて、地方再生の取組を進めています。この取組の中で、水谷さんは、高知県の野根川で魚道の改修や商品開発を行ってきました。

また、水谷さんの取組の記録や地方再生についての検討などを、著書「川から始める地方再生」に記しています。



講座2期生の川田さんは、サミットに参加するため、お住まいの東京都から高知市に来てくださいました！鏡川の様子もしっかり確認し、「関係人口がもう一人おりました」と写真を共有してくださいました♪

川田さんが撮影した写真。鏡川漁業協同組合の皆さんがカワウ対策で鏡川沿いに設置しているカカシも、関係人口の一員…!?



各参加者の関心事を中心に、多様な意見が飛び交います。水力発電や生物多様性、防災、イタドリ調理法など、多様な視点から鏡川について考えました。



「私だけが一方的に話すのではなく、自由にコメントしてくださいね」と水谷さん。

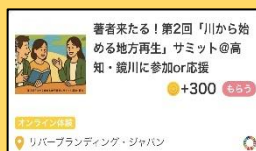


今回も、「ぼっち」のスポットである「はりまやアンサンプル」で開催しました。鏡川流域関係人口講座受講生や、日頃から当事業にご協力をいただいている高知大学地域協働学部の教員の方々、高知市土佐山地域振興課職員など、総勢10名で、「川から始める地方再生」の内容をもとに意見交換を行いました！

「川から始める地方再生」で紹介されている「バイオリジョナル公園(地域特性を反映した公園)」を鏡川流域に作れないか、という話題について、自然と人の関わりを適切に提供するアウトプットの形を熱く語り合いました…！



鏡川流域の自然や生態系の遍歴をありのまま伝えていきたいです。第3回サミットは鏡ダムへの訪問!? 今後の開催も楽しみです♪



多くのユーザー様から「ぼっち」を通じてコメントをいただき、関わりを可視化しています。「川を通して、生物も人も産業もいろいろ関わるんですね！川幅が日本一の埼玉県鴻巣市ですが、川には全く関わりがないのでこの取組は素晴らしいと思っています」「遠方で参加できませんが、すごい熱量が伝わってきます」



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっち」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっち」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android